

〔特産熱帯果樹等の安定生産技術の開発〕

高品質マンゴーの安定生産技術の開発

～摘房処理による商品化率の向上～

河野 章・佐藤澄仁

(小笠原亜熱帯農業センター)

【要 約】 摘房処理を行うことにより平均果重が増加し、商品価値が高いとされる 350g 以上の果実の割合が上がるのがわかった。しかし、着果率の低下が見られ、摘房処理による総収量の減少が認められた。

【目 的】

これまで、より大きな果実を生産するために灌水量や施肥時期および量について検討を行ってきた。今年度は花房の摘房により花数を制限し、個々の花の充実、着果促進、栄養分の集中的な転流を図ることで商品価値が高いとされる 350g/個以上の果実の比率を高めることを目的とする。

【方 法】

供試品種は「アーウィン」を用いた。開花始めの時期に花房の上部、下部それぞれ全体の 1/4 の花軸を切除 (1/2 摘房) した。果実が親指大の大きさに肥大した時期に全ての花房につき 1 果になるよう摘果を行った。無処理区 100 花房、処理区 (1/2 摘房区) 100 花房について着果率、果実重、収穫日数、収量について調査した。

【成果の概要】

収量調査 (表 1)

- 1) 平均 1 果重は摘房区が無摘房区に比べて約 25 g 重く 402.6g となった。
- 2) 着果率は摘房区が 62%と無摘房区 (68%) に比べて低かった。
- 3) 収穫日数は両区共に差が認められなかった。
- 4) 収量 (100 花房あたり) は摘房区が 25.0kg, 無摘房区が 25.7kg と約 3 %無摘房区が多かった。
- 5) 350g/個以上収量は 100 花房あたり摘房区が 21kg(総収量の 84.0%), 無摘房区が 18.5kg (同 72.0%) であった。

規格別収量(表 2 および図 1)

- 6) 両区とも 500g 以上の果実割合が最も高かった。
- 7) 350g 以上の果実の割合は摘房区が 67.7 %, 無摘房区が 57.3 %となった。
- 8) 250g (M 級) 未満の果実の割合は摘房区が 9.7 %, 無摘房区が 17.7 %となった。
- 9) まとめ: 以上から、摘房処理を行うことにより平均果重が増加し、商品価値が高いとされる 350g 以上/個の果実の割合が上がるのがわかった。しかし、着果率の低下が見られ、摘房処理による総収量の減少が認められた。

表 1 収量調査 (各区 100 花房調査)

	平均果重 (g)	着果率 (%)	収穫日数 (日)	総収量 (kg)	350g/個以上収量 (kg)
摘房区	402.6	62	131	25.0	21.0
無摘房区	378.2	68	132	25.7	18.5

表 2 規格別収量 (各区 100 花房調査)

	500g 以上	450 ~ 500g 未満	400 ~ 450g 未満	350 ~ 400g 未満	300 ~ 350g 未満	250 ~ 300g 未満	250g 未満
摘房区 (個)	20	4	8	10	7	7	6
無摘房区 (個)	15	2	12	10	8	9	12

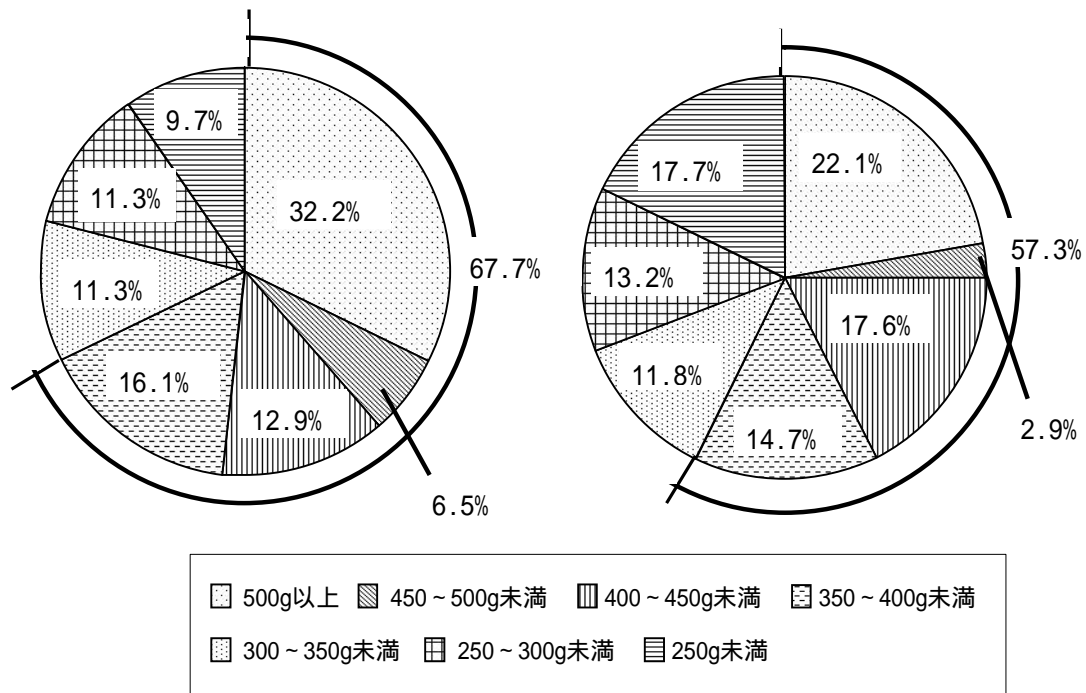


図 1 収穫果の重量別構成割合